

第35回 第3部会(保健福祉) 議事録

- - 全て敬称略 - -

日時 平成21年10月16日(金) 18:30～20:20
場所 市役所 2階 第1委員会室
出席者 山田耕一 平田和弘 木村義恭 橋本真弓 畑田ひろみ 瀧川正義

議題

1. 運営委員会の報告(9月28日分) 資料なし
 - ・各部会とも今後の検討テーマが定まらず、これからの活動方針・推進方法を検討するために、特別委員会を設置することになった。
第1回の特別委員会は10月14日に実施されたが、自治推進委員会に対し、参加委員の取り組み意識・考え方に差異が見られ、改めて「登別市まちづくり基本条例」にうたってある第28条”市民自治推進委員会の設置”の項を認識するため、次回までに各委員の疑問点、意見を持ち寄ることになりました。
 - ・平成21年度の「市民フォーラム」開催について、第1部会より提案あり。
内容については次回運営委員会に「案」を提出することになりましたので、決まりしだい報告いたします。

2. 今年5月に提言した「精神障がい者に対する交通機関等の助成について」の回答を説明 資料あり
 - ・市の現状認識
交通機関の助成として「社会復帰施設通所交通費助成制度」がある。
一般交通機関を利用することが困難な重度の障がい者に対し、「重度障害者福祉タクシー事業」で、一部助成金を出している。
 - ・市の検討結果
関係する交通機関と折衝したが、現状打破は困難と判断した。
国の通達が出た場合は再度、検討する。
 - ・第3部会の今後の対応
結論はある程度予想通りであったが、行政側に認識させたのは大きい。
本委員会は協働で推進することになっているので、検討過程でお互いに顔を付け合せて協議すべきとの意見があった。
一旦、この件は落着させる。

3. 今後のテーマ選定について

資料なし

フリーディスカッション形式で各自の意見を交換した。

- ・道の高齢者福祉対策で「高齢者のみまもり運動」が取上げられ、登別市が指定都市になったようだが…。
- ・福祉活動に関しては、市・社協・各種団体が活動しているが、横の連携が感じられない。個別団体としては活動方針があるようだが…。重複している問題点を整理してみてもうだろうか。 X
- ・市職員の対応方法に問題はないだろうか。まず、拒否の姿勢が見えるよね。市職員が民間会社に出向すると意識が変わるのではないだろうか。社協に出ているよ。でも、社協は市役所と同じようなものじゃないか。市と社協の関係はどうなんだろう。密接な関係はありそうだが、法的な規制はなさそうだね。 X
- ・個別に福祉テーマを取上げても範囲が広すぎて氷山の一角に成りかねない。全体的な事業計画の中から、ビジョン・目的を明確にしてテーマを決めるのはどうだろうか。
- ・幼稚園、保育所にしても、国の管理管轄が異なり、非常に制約が出ている。本来、子供を預ける趣旨は親から見れば同じで、役所の都合で決められるものではない。市 道 国へ問題点を提起してはどうか。地方自治として、市の条例で解決できないのだろうか。市と協議の必要あり。
- ・今後のテーマとしては、「子育て支援の現状と支援体制について」に決定とします。

・キーワード

「自主自立のまちづくり」	協働のまちづくり。スローガン・コンセプトづくり
「誰のための福祉か」	ターゲットを明確に。働く世代とその子供 高齢者福祉は町会にお任せ
「予算を意識」	事業規模を明確に
「環境づくり」	・施設 ・子育て支援団体
「市職員の意識改革」	チャレンジ精神・表彰制度

3. その他

< 次回開催日 > 平成21年11月18日(水) 18:30～20:30
市役所2階 第1委員会室
議題 「子育て支援の現状と支援体制について」

話に出た” 印の項目”をベースに、子育て支援に関する各自の「思い」をメモにしてお持ちください。

たたき台としては、保健福祉部(子育てグループなど)の事業項目が参考になると思います。最初は勉強会も兼ねて行います。あまり気張らないで気楽に望んでください。

- - - 以上 - - -